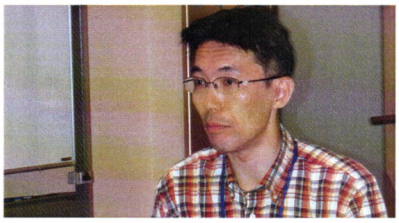
2014年度夏季シンポジュウム 任地での危機管理　ヒヤリ・ハット体験を語る

8月9日にJICA横浜センター1F会議室で夏季シンポジュウムを開催した。JICA横浜市民参加協力課浅見課長による基調講演、JECK会員4名によるパネルディスカッション、質疑、討論、意見交換等が、和やかな内にも活発に行われた。

基調講演　国際協力の現状と課題

JICA横浜国際センター　市民参加協力課　課長　浅見 栄次[1]



1. ODA(Official Development Assistance)の概要
2013年度の日本のODA事業規模は、16,902億円(JICA担当分:12,261億円)である。政府一般会計に占めるODA予算も、ピーク時の11,687億円(1997年)が5,502億円(2014年)と半減している。日本のODA予算は、米、英、仏、独に続く5位、対国民総所得比は、0.20%で、先進23国中の20位である(2010年暫定値による比較)。
2. ODAの時代の役割と変化
ODA大綱=政府方針　国際社会の平和の発展に貢献し、これを我が国の安全と繁栄の確保に資すること。
JICAの調査では、ODAの認知度は、63.2%(2001年)から82.1%(2012年)と改善されたが、必要性の認識は57.45%(2001年)から30.7%と低下している。
1954年(援助元年):コロンボプラン加盟。戦後賠償開始。
1965年:青年海外協力隊発足
1973年:援助量的拡大、形態多様化、エネルギーや食糧安全保障など援助の戦略化。国際協力事業団(旧JICA)設立(1974年)
1990年代:日本が世界最大の援助供与国(トップドナー1989年)政府開発援助大綱策定(1992年)
21世紀:ミレニアム開発目標　政府開発援助大綱改訂(2003年)
JICA誕生(2008年10月)
2011.03.11:東日本大震災に世界各国・地域から1640億円以上の支援を受けた。
3. ODAは日本のソフトパワー
世界からの信頼と絆をつくる国際協力は、日本の新たなソフトパワー、文化へ。
ODAはドラマである。結果だけでなくそのプロセスで筋書のないストーリーが生まれる。そのストーリーのもとが「日本らしさであり」、他国の援助と違う日本の援助が生まれる。専門家、コンサルタント、ボランティア等さまざまな人たちがドラマを創っている。今、いろいろな面で世界は日本に注目している。まさに「日本らしさ」を発信するチャンスでもある。
これからは、ALL JAPANで国際協力を創る時代。「国」ではなく、「市民」でなければできないことも多い。
国際協力を山に例えると、山頂=参加、中腹=知る・理解する、裾野=関心を持つことになる。裾野があるからこそ、山は高く美しくなる。広く立派な裾野をつくるためにも、国際理解教育が大切である。

パネルディスカッション

海外赴任国での安全・安心(ヒヤリ・ハット体験)

パネラー　冨永 秀雄[2]　笹山 弘[3]　上田 恵一[4]　安延 義弘[5](発言順)

挨拶・情報収集及び吟味・感染症に注意　冨永　秀雄[2]

海外の発展途上国で約40年間に渡り仕事をしてきました。現在はパキスタンで畜産開発の仕事に携わっています。幸い大きな事故、事件に遭遇することもなく、安全に安心して途上国で生活を送ることができました。

一方、私は獣医師として畜産開発に携わり、このような理由でどの国でも家畜が身近にいました。従い人獣共通感染症を含めた健康管理に留意してきました。今まで大過なく生活を送れた理由は、現地で触れ合った多くの知人・友人のご協力と彼らから教えていただいた知恵と情報を前向きに活用してきたかです。本日はその概要を紹介させて頂きます。

1. 言葉も変わり、価値観、伝統も異なる国(精神衛生)
　*いつも前向きに「何とかなる、必ず解決策はある」を自分に言い聞かせそして深呼吸
　*ポジティブ姿勢を維持するため、現地でできる楽しい趣味を必ず見つけ⇒発散
2. どの国も仕事は長期戦(健康)
　*充分な睡眠そしてバランスのとれた食事、そしてA型肝炎等々の原因となる生ものに注意
3. 人獣共通感染症(健康)
　*狂犬病:ワクチン、破傷風:ワクチン、結核:生牛乳は煮沸、ブルセラ病:手の洗浄と消毒の励行
4. 地方回りと見知らぬ地域の訪問が多いライフ(安全)
　*気軽な挨拶と正しい情報収集⇒情報吟味⇒危うい場所は近づかない

治安の良い国でも、注意して行動する　笹山　弘[3]

私が赴任したタイ、カンボジア、ベトナムは比較的治安のよい国々だと思います。それでも、カンボジアのプノンペンでは夜間は徒歩での外出は厳禁で、食事等は必ず車を使いドアトゥードアです。赴任中、夜間ガソリンスタンドが銃を持った強盗に襲われ死者が出る事件がありました。

ベトナムは中部のフエが赴任先で、ここは本当に治安がよく、夜遅く歩いていても安心なところです。ただ、ハノイ、ホーチミンではバイクに乗ったひったくりが発生していて注意が必要です。ベトナムはどこでも交通事故が多く、これが一番注意しなければならない点です。

タイはバンコクに住んでいましたが、治安の悪い地域には立ち入らなかったので、生命の危険はありませんでした。ただ、シンガポールからの旅行者を装ったスリ、日本人による詐欺には出会ったことがあります。幸いにも、他の専門家から事例を聞いていたので、被害には遭わずにすみました。

任地でのストレスは国内の3倍　宗教に敬意を表す　上田　恵一[4]

1. "安全と健康管理"は、JICAの事前研修とテキストが、住宅の選択から勤務、生活、健康管理、心構え迄すべてを網羅している。そのほかに、海外勤務健康管理センターJOHAC配布されるパンフレット、海外生活トラブル事例・解説文庫本の3点をそろえれば、渡航前の準備は完璧
2. 滞在中は、異邦人と接するストレス、危険予知、食事・炊事、語学、健康保持等で国内の3倍のストレスを受ける。近隣の人と親しくなる、危機予知訓練、食事・炊事は化学工学の単位操作的発想をする、医者と親しくなり健康上のトラブルを避ける等個別に解決した。
3. 相手の宗教に敬意を表する事が大切。『無宗教』は、日本では知的でカッコヨク思われるが、イスラム社会では、生活習慣や道徳をわきまえず、大人になった輩と思われる。
4. アンマン空港で無事帰国を誓ったが同期4人が、任地で逝去した。彼等の無念を思い冥福を祈ります。

災害・事故は自己責任で対処　安延　義弘[5]

災害、盗難等の防止の基本は自己責任

私はJICAの長期及び短期専門家として足かけ6年余り海外で技術協力に従事しました。その他に日中農林水産協力や国際学会への出席、現地調査、海外遠征や観光などを含めると29か国、46回海外に出てきました。

この中で、身の危険を感じたのは内戦中のスリ・ランカに滞在中、LTTE最後の大規模爆弾テロに遭遇した時でした。長期滞在中のホテルの窓は爆風ですっとびましたが、爆発が起こる前に最悪の状況を考えた対応をとっていたので無事でした。また、治安の悪い所、伝染病が問題となっている地方など、かなり危険な所にも一人で行動したこともありましたが、このこと以外に海外での滞在中盗難等を含めて被害にあったことはありません。

それは自分の行動に責任を持つと言う事を常に意識してきたからだと思っています。

浅見課長　　冨永氏　　笹山氏　　上田氏　　安延氏

1. あさみ・えいじ　1997年10月JICA入構　ウズベキスタン事務所、東アジア・中央アジア部、企画部などを経て2012年5月より現職　2. とみなが・ひでお　専門分野:獣医師、畜産、農業開発、生活改善　任地(JICA)ボリビア、マダガスカル、インドネシア、ニカラグア、パキスタン　3. ささやま・ひろし　専門分野:上水道水質　任地(JICA)タイ、カンボジア、ベトナム　4. うえだ・けいいち　専門分野:環境科学(工学)　水質管理と排水処理　任地(JICA)ヨルダン　5. やすのぶ・よしひろ　専門分野:農業　任地(JICA)ネパール、ブラジル、スリ・ランカ　任地(JICA以外)中国、台湾、タイ、オーストラリア